いま風 水曜日

旅計画すると取りつく

疫病神のマナー

星野 博美 作家

お風呂に浸かりながら、仕事とは関係ない冊子やパンフレットを眺めるのが好きだ。日本野鳥の会のパンフレットはお気に入り。最近、バルコニーによく鳥が飛んで来るのだが、それが誰なのか、野鳥に疎い私はてんでわからない。もっと野鳥に詳しくなりたいと思う。

国立民族学博物館の会報誌。世の中には世界のこんな場所でこんな研究を地道に続けている人がいるのかと、読むたびに驚かされ、軽い感動にすらられる。

そして旅行会社のパンフレット。私はこれまで、自由旅行が解禁されていなかった時代の中国と、崩壊前のソ連にツアーで行って以降は、すべて個人で海外に行ってきた。それでも旅行会社のパンフレットを求めるのは、様々な情報を与えてくれるからだ。

A国とB国は陸路移動が可能なのか。こうすれば手順よく回れるのか（昔と違って、長い旅行はできないため）。C国ではこの時期が新年なのか……。まだ見ぬ世界を脳裏に描き、目をトロンとさせる。そして時々、それらを浴槽の中に落とし、水分でシワンワにさせてしまう。

要はお風呂の中で現実逃避をしているわけだが、そこには少し後悔も含まれている。

若い頃、一般の人よりは長旅をよくしたし、海外に住んだこともある。が、その選択地域は意外に狭かった。当時は、むやみに世界を広げるより、ある地域を重点的に訪れて理解を深めるべきだ、という考えに傾いていた。

それは間違いではなかった。しかし自分の残り時間が意外に短いことを悟り始めたら、焦りが芽生えるようになった。さらに昨今の世界情勢やパンデミックの可能性を考慮すると、行ける時に行かなければいけない。従来の少数地域精密から方向転換し、もっと気軽に広い範囲を対象とすべきではないだろうか。今ではそのように考えている。

たまたまそんなタイミングで友人とご飯を食べ、彼女からインド北部のラダックへ行かないかと誘われた。ラダックへは21年前に行ったことがあるが、トラブル続きの仕事がらみだったため、風景や人々の生活に目を向ける余裕はなかった。もう一度行きたいー。その場で話がほぼ固まり、私たちは早速手配を頼む。

そのわずか一週間後、インド北部のカシミールで無差別テロが起きた。インドとパキスタンの間で緊張が高まっているのは周知の通りだ。ラダックは仏教徒が多く、テロが少ないとはいえ、距離的には近い。まだ予断を許さない状況だ。

遅ること半年前、14年ぶりに韓国行きを決断し、出発が1週間後に迫ったタイミングで戒厳令が敷かれたことを思い出して失笑した。

私が久しぶりにどこかへ行こうとすると、そこに何かが起きる。疫病神確定である。

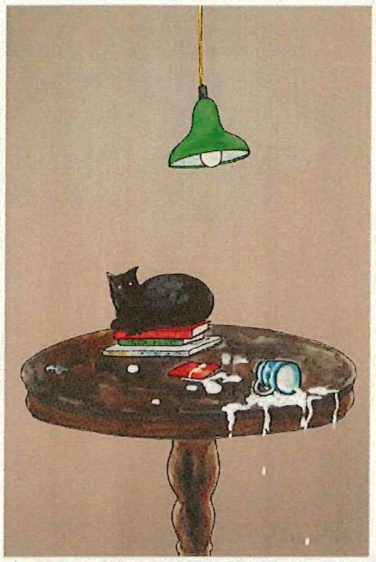


イラスト maegamimami

国際共同創作の流儀

小池博史 [2]

交流でなく「衝突と融合」

私の創作は常に異なるものに満ちている。子供の頃から同じ、もっぱらである。だが嬉いでいつも明後日の方を向いていた。同じ文化圏の出身者との創作でも、異なったバックグラウンドを求めた。異文化なら尚更だ。技量が高いのは必要条件で、最も大切なのは柔軟性。これがないとダイナミズムが生まれない。「私はこれしかできない」とやられたら、技能が素晴らしくとも面白くならない。隙間がまれないからだ。

「隙間」はきわめて大事。これが魅力的時空間を作る。他の参加スタッフも同様。隙間があれば可能性に向かってトライでき新たな何かを引き出す。「異」を認めることも「隙間」に繋がり、ここに成功の鍵は潜む。

大事なのは単なる混成チームにならないこと。よくコラボレーションと称した混成チームを見かけるが多くは形だけ。いかに「衝突と融合」を図るかが肝だ。単なる交流では新たな示唆は生まれない。

アジア7か国の演者たちと「マハーバーラタ」を9年かけて制作したように、私が試み続けて来たのは「衝突と融合」を繰り返しながら大いなるダイナミズムを作り上げることだった。この過程にこそ、今後の世界を変える鍵があると本気で思ってきた。作品が悲劇であっても創作は融合の過程なのだ。（空間演出家）

たしなみ

しなみ

TASHINAMI

ほしの・ひろみ 今年は第二次世界大戦終結80周年。昨年訪れたカザフスタン（旧ソ連）で5月9日の戦勝記念日を盛大に祝う様子がSNSで流れてきました。東京の我が家が焼けたのはその半月後。奇妙な形で世界が身近に感じられた5月でした。

RPG 米国発のテーブルゲーム

はじまり考

自分の分身のような主人公が仲間を集めて迷宮を探索し、敵を倒すストーリーが定番のロールプレイング・ゲーム（RPG）。NPO法人「ゲーム保存協会」によると、世界初のRPGは1974年にアメリカで発売された「ダンジョンズ&ドラゴンズ」というテーブルゲームとされます。

プレーヤーがそれぞれキャラクターを演じ、紙やサイコロなどを使ってゲームを進める。アナログ形式で、妖精や騎士、魔法使いなど登場する世界観が後の作品に影響を与えました。

80年代に入ると、コンピューターゲームのRPGが普及。国内でも、様々な作品が開発され、86年に一作目が発売された「ドラゴンクエスト」シリーズは、シンプルな操作性やキャラクターデザインで成功を収め、RPGの人気は不動のものとなりました。

ゲーム保存協会のルドン・ジョゼフ理事長は「RPGは海外発祥だが、ストーリー性が高い日本の作品は世界中で評価されている」と話しています。

（田野口遼記者）

「ドラゴンクエスト」の新作発売時には長蛇の列ができることも（2012年、東京都内）

※「たしなみ」は毎週水曜日掲載。次回（11日）は、松本俊明さんの「お辞儀のマナー」の予定です。

発言小町

トピ Topic

子連れ外食の対応について

ファミレスに行った際、2歳の息子の足がソファに当たり、「ドンドン」と音を立てていました。声をかけてもやめませんで。夫が「しつこいんだよ!!」とどなって、怒りに任せて息子の靴を脱がせたので、息子は大泣きです。そんな中、隣に座る50代くらいの男性が私をにらんでくるのです。無言の圧力をかけられているようでとてもつらかった。外食中に子どもが迷惑をかけそうな時、どう対応されていますか？

（悩ましい）

レス Response

外食で騒ぐ息子 冷たい視線

親が落ち着かせて

やめさせてください

音だけでなく振動も周りの席に伝わり、非常に不愉快です。声かけなんて悠長なことはせず、さっさとベビーチェアに座らせるなどしてください。どなった旦那さんに正直拍手です。（まじで勘弁）

静かにさせる努力と外に連れ出す工夫を

その50代男性が思いと思っているでしょ？「にらまなくたって。子どもなんだから仕方ないじゃん、感じ悪いわ」って思っているでしょ？ 違うよ。静かにさせようとしない親に怒りを感じているんですよ。（ゆゆゆ）

人様のことはどうでもいい

「ファミレスは子連れにも優しい場所だと思って」にあぐらをかいてはいけません。2歳になれば、言い聞かすことができてくる年頃。それができていないのは事実。公共の場に出るのは早かった。親のしつけの責任と受け止めましょう。（通りすがり）

どなる夫

ひどい言葉遣いで子どもを怒っている親に会いますが、びっくりして見てしまいます。いつもこんなふうにどなられているんだな、かわいそうにと思ってしまう。その50代の男性も無言の抗議をしたかったのかも。（すき焼き）

しばらく控えては

子育て大変ですよね

うちも2歳半の頃、レストランで騒がれて手に負えなくなって以来、外食はしばらくやめました。親の方が疲れるとわかったので。外で子どもを叱って、人の目を気にして、夫婦げんかして落ち込むのは、誰のためにもなりませんもんね。（ひなた227）

つらいですね

まだ言い聞かせても、できない時期ですよね。うちもこの時期はファミレスといえども外食は控えていました。外食に行くとすればフードコート。多少騒いでも逃げ場がありますしね。もう少しすれば言い聞かせられますし、外食はちょっとの我慢。（まかセロリ）

遊べるもの用意

スマホを見せてました

ドンドンしちゃいますよねえ、なぜか。周囲もママにむけて圧力……。私は外食の時ぐらいゆっくりしたかったので、スマートフォンを見せていました。小さいおもちゃを用意しておいて、その時に初お披露目したりね。（まる）

私がよく見かけるのは

ファミレスより安い回転寿司、便利ですよ。昔、双子を連れてよく行きました。注文はすぐ来るし、2口で食べられる。イヤイヤが収まらなくて、ためだーと思ったら、途中でもすぐ出られます。米なので、すぐに店を出ても、それなりにおなかは膨れましたし（笑）。（今だけ。）

イラスト・山崎のぶこ

しつけ

コミュニケーションをとる

見られてると思ったら、すぐに「お騒がせします」とコミュニケーションをとるのはどうでしょうか。すみませんより明るくて使いやすい言葉です。そう言われて変な態度をとるような人は、あまりいないというのは私の経験です。（デッコ）

声かけ、気分転換させる

子育てアドバイザー、高祖常子さんの話

「『お膝を付けて座れるかな？』など、分かりやすい言葉で声かけしてみましょう。塗り絵など、音が出ないおもちゃを用意するのも手です。それでも落ち着かなければ、一時的に外に出て気分転換を手伝ってあげてください。周りに迷惑をかけたくないと気を張りすぎず、家族がストレスなく外食を楽しめる方法を探してみてください」

小町拝見

Komachi Haiken

柴門 ふみ

老後のケア 友情とは別

共に独身一人暮らしの60代女2人。学生時代からの付き合いで一方には独立した娘がおり、片方にはいない。今後病気になったり死亡したりした場合は、互いに助け合うと子のいない方から提案された。

子のいるトピ主は入院時の保証人や病気の看病は娘に頼むつもりで、彼女から「お互いさまだから」と言われても納得がいかない様子です。心に負担も感じてえそうな悩んでいる、そんなトピでした。

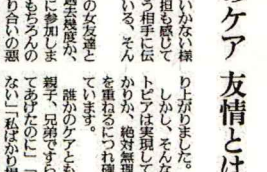
老後は仲良しの女友達と暮らしたいね。過去幾度か、私もそんな会話に参加しました。独身者はもろくみのこと、家族と折り合いの悪等々、不平不満がたまっていきます。ましてや、好意友情といったあやふやなものを基盤に赤の他人とケアを共有する日常は、考えただけでストレスです。互いに気の使い合いで自滅するのが見えています。

中途半端な友情よりも、公的なサービスに頼る方が気持ちの上ではずっと楽。年を取れば取るほど、私はその思いが強くなっています。「お互いさま」という言葉には、「私がこれだけやったのだから、あなたも返してよ」という意味が隠れ含まれていて、友情というよりは力学です。「ウィンウィン」と同じくらい、真の友情からは離れた言葉だと、私には感じられるのです。（漫画家）

Q 朝の身支度、何分かかる？

小町Vote

朝、仕事に出かける妻の身支度の時間が長いとぼやくトピ主さん。洗面台で20分から30分、化粧などをしているようですが、「本当に必要な時間？」とトピ主さんは首をかしげます。編集部が実施したアンケートでは、身支度の時間は「15～30分未満」が最多でした。



「小町Vote」を、X（旧ツイッター、@kuraget）で受け付け中。

発言小町 こちらから ▶▶▶

「発言小町」（https://komachi.yomiuri.co.jp/）は、読売新聞が運営するユーザー投稿サイトです。そこに寄せられた話題から、盛り上がったトピックや面白かったテーマを掲載します。「トピ」はトピック、「レス」はレスポンス（返答）を意味するネットの略語です。